



紫映通信

第28号

発行 立校局
山梨県高等学校
甲府昭和高等学
PTA事務
印刷 南平印刷

回書式 27証与 第卒業授

本日三月一日、多数の来賓のご臨席のもと、卒業証書授与式が挙行されます。山梨県立甲府昭和高等学校第二十七期生、三百十三名が学舎を旅立ちます。これで創立以来の卒業生は八千八百四十七名を数えます。

新卒業生の活躍と輝かしい未来に対し、心からの祝意を表します。

想像と創造

校長 阿部 邦彦



卒業生諸君、卒業おめでとうございます。

「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」という言葉があります。フランスの小説家ジュール・ヴェルヌのものとして流布していますので、聞いたことのある人も多いかと思いますが。SFの父とも呼ばれるヴェルヌの小説と組み合わせると一層説得力の増す言葉です。

私の経験からも、例えば小さい頃漫画で見た持ち歩きの出来る電話機は、今では、携帯電話として現実の物になっています。漫画の

作者が想像したことが実現したことになります。科学や文明の進展は実は誰かの想像がもたらしたもののなかでも知れません。想像が創造につながっているわけですから、ヴェルヌの言葉は、「想像できることは創造できる」と言い換えることができます。

これは何も科学技術に限ったことではありません。私たちの生活の中で、こうありたいと具体的な姿が想像できたら、それは実際の行動とすることができ、現実のものとして創造することができます。それは、十年二十年後と遠い未来の事ばかりではありません。明日自分はこんな事をしたい、こんな自分でありたい、と明日の事でもいいし、朝、目が覚めた時布団の

中で、今日はこんな事をしよう、こんな事に挑戦してみようと、今日の自分を想像するのも良いのです。

将来の自分を思い描くのは難しいことですが、今日やらなければならぬことに誠実に挑戦することが、実は未来の自分につながっているわけですから、今日の自分を想像し、創造しようとすることは大切なことだと思えます。

これからの社会の担い手となる皆さんのような若者の（いや、年齢だけのことでない）、若々しい精神の持ち主と言いましょ。挫折や失敗を恐れない、しなやかに柔軟で革新的な想像力が未来を切り開き創造する力になるのです。今日の自分、明日の自分、未来の自分を想像する時、その言葉は肯定文であってほしいと思います。私の大学時代の哲学の恩師は「哲学の結論は絶望でもいいが、教育の結論は希望でなければならぬ」と仰っていました。今、この時代

にあって、まさにそのとおりだと思いますし、私たちの生きるということ自体が希望であるべきだと思います。そして希望はやはり肯定文で語られるべきものだと思いますし、自分についても他者についても肯定文で語っていききたいものです。

この一年間私は先生方に肯定文で語ろう、甲府昭和高校の生徒ならできると信じて、ひとりひとりを大切にして教育にあたらうと呼びかけてきました。

皆さんは是非、自分ならできると自分のことを肯定文で考えて、自己肯定感を強く持って、未来の自分や社会を想像し創造していただく。皆さんなら必ず出来ます。

門出にあたって高浜虚子のこの一句。

春風や

関志抱きて

丘に立つ



飛翔を大いに期待

PTA会長 兵道 顕司



第二十七期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、三年間ご指導くださいました先生方に改めて深く感謝申し上げます。いよいよ皆さんは学び舎を後にしてそれぞれの道に巣立っていく時を迎えました。この三年間でそれぞれが自分自身の可能性に目覚め、未来に向けた基盤をしっかりと築いてこられたと思います。これから皆さんが甲府昭和高校卒業生として、どんな活躍をみせてくれるか楽しみであり、また大いに期待するところです。

さて、東日本大震災からの復興が未だにはっきりとした明るい兆しが見えない今、日本は多くの課題が噴出し、その大きさに様々な面で閉塞感が漂っている状況です。少子高齢化がますます進行する社会構造の変化のなか、景気・経済は長い間低迷し、また、原発事故を契機とした安全・安心なエネルギーへの転換の要請、さらには今後高い確率で発生するといわれる大地震への防災・減災の対応など、一人ひとりがこうした事態への関わりを余儀なくされています。

この現状を打ち破るのは、皆さんを始めとする「若者」のもつエネルギーだ、ある識者は指摘して

います。IT時代の世界を席巻しているソーシャルネットワークサービス「フェイスブック」はアメリカの大学生が始めたものであり、今日のインターネットの急速な普及は若い世代の力によるところが大きいことなど、若者の持つエネルギーや可能性は、今や時代を創る大きな原動力です。その意味で、皆さんにはこれからも社会と関わりを持つ中で思う存分その力を発揮していただきたいと願うものです。

一方で、皆さんはこれから様々な試練や困難に直面することもあるでしょう。時にはその解決に悩む場面に遭遇するかもしれません。その際、JAXAの「はやぶさ」プロジェクトマネージャーの川口淳一郎教授がその著書の中で教えている考え方は大いに参考になります。それは、「できない理由」をあきらめず、これを「できる理由」に変えていくこと、そして「どうしたらできるか」を考えていくこと、というものであり、教授はこれを「はやぶさ式思考法」と名付けています。必ず乗り越えられる道があるはず、といういわば「楽観主義的」な考え方であり、皆さんならば必ずできるはずだと確信しています。

いずれにしても無限の可能性を秘めている皆さんです。その「宝」をますます磨き、誇りと希望を持ってこれから様々な分野で、自分らしく一層輝いていくことを心から期待しています。

卒業生に贈る言葉

新たな目標にチャレンジを

PTA副会長(三学年部会委員長)

秋山 芳文

三年生の皆さん、保護者の皆さんご卒業おめでとうございます。また、ご指導いただきました校長先生をはじめ諸先生方には、心より感謝申し上げます。甲府昭和高校での学習、部活動、紫映祭、競歩大会、研修旅行など「自主創造」の教育方針のもと、素晴らしい三年間を過ごされたことと思います。今日は卒業と同時に、人生のセカンドステージへスタートを切る日でもあります。進学、就職とそれぞれのハードルを乗り越え進んで行くわけですが、ぜひ、失敗を恐れず新たな目標を設定しチャレンジする気持ちを忘れないでください。皆さんを取り巻く社会状況を見ると、三・一一東日本大震災の復興がなかなか進まず、日本経済を支えてきた製造業の元気がなく、これらの復旧の指揮をとる政権が交代するなど、混沌とする中にも一筋の明かりが射してきたような気がします。そのような社会へ飛び込んで行く皆さんに、人生の先輩として月並みですが、アドバイスを送りたいと思います。まず、楽を求めないこと、人生必ず楽もあれば苦もあります。今、皆さんが学業や仕事の旬の時期にやることは、楽を求めず自分を磨くことです。ここにフォーカスしてください。チャレンジに失敗しても無駄にはなりません、必ず財産になります。次に、プラス思考で生きることです。ものは考えようで、悲観的、楽観的両方ありますが、楽観的に見てプラス思考で行動する、これが非常に大事なことでと思います。身の回りに問題は探せばいくらでも出てきます。あれもダメだ、これもダメだし、ではお先真「暗」、気持ちが悪く入ってしまう。見方を変えて、私がやるんだ良くなるんだ、問題があるから自分の出番があるんだと考えてみて下さい。最後にアンテナを高くです。現代の若い人たちは非常に狭い領域を、深く極める傾向があると言われています。物事を極めることは大事ですが、同時に広く様々なことに関心を持つことも大切です。そのためには、本、新聞を読んでもください。映像はそれ以上にはならず想像力をふくらませません。知識、社会情勢、国際問題など読んで知ることにより、「この世界を生きている」を実感できます。

甲府昭和高校で貴重な三年間を過ごされた卒業生のみならず、ご多幸とこれからの活躍を、心よりお祈り申し上げます。

「力」持ちになろう

PTA副会長(二学年部会委員長)

土橋 みえ

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。また、保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。私たちは、生まれながらにして、体力、知力、コミュニケーション力など様々な能力を持っています。それは、生きる上で基本的な力で、もともと一定の力を持っていますが、人それぞれ、おかれた環境によって、さらに力を高めたり、新しい力を得ていきます。たとえば、部活動等で体力をつけることで、持久力、適応力、調整力を。勉強で学力をつけることで、読解力、判断力、分析力、発想力を。人とのかかわりの中で、コミュニケーション力をみがき、自己表現力、相手への理解力、傾聴力、受容力へとつながり、健全な人間関係を築いていくことができます。これまでは、家庭や学校という守られた中で、授業や行事を通していろいろな力をつけてきました。これは、周りが意図的におぜん立てしてくれていたものでした。これからは、自分自身で身につけていかなくてはなりません。持てる力は、いくつあっても邪魔にはなりません。自身の助けになります。周りの人の助けにもなるでしょう。そして、そのときの力たちは、あなた自身をつくっていきます。力は、すぐには身につかないですし、様々な経験や意図的な訓練によって身につくものですが、それによって自らの成長を実感できるのではないのでしょうか。多くの人は、波瀾万丈な人生ではなく、端から見ると平穏な人生を歩んでいきますが、その人なりに山や谷は当然あって、平坦な道ではないことは、私たち保護者は十分承知しています。「力」の差によって、進む方向が違ってしまっても経験しています。だからこそ、卒業生には、これからの社会生活の中で「力」をつけ、山や谷に出会ったとき、その時の持てる「力」を総動員して、道を切り開いてほしいと思います。その持てる「力」たちが、あなたの「生きる力」となって、最善の道を歩んでいけるよう願ってやみません。卒業生ノ ファイトノ

温かい心ある人間として

PTA副会長(一学年部会委員長)

小林 淳

三年生の皆さん、ご家族の皆様ご卒業おめでとうございます。これからはそれぞれの人生のステージに向けて、新しい道を進んでいくことになります。その道のりにおいては、色々な困難や試練が待っている事とは思いますが、この甲府昭和高校で学んだこと、先生方や大切な友達との思い出を心の糧として乗り越えていって下さい。さて、皆さんご存じの通り、今の世の中は携帯電話やインターネット等の急速な発展で、人と人との直接会話をしなくても、また相手が誰かがわからなくても色々な事柄が簡単に成立してしまうのが現状です。それはとても合理的であり、便利である反面、人としての関係を形成していく上では幾つかのリスクもあると思います。例えば、ネットにおける金銭トラブルや、誰からも分からない相手から誹謗中傷を受けてしまったりと多くの危険が潜んでいます。このような事で傷ついてしまふのはとても悲しいことです。でも人の言葉に傷つけられても、その傷を繕ってくれるのは、やはり人からの温かい言葉だと私は信じています。どうか皆さん、自分の本当の気持ちや想いを伝える時は相手の人と向き合って心からの想いを伝えて下さい。皆さん一人一人は温かい心を持った人間なのです。人と人との関係が温かくなれば心は暖かくなります。心が暖かくなれば感情が生まれます。人を愛したり、また逆に憎んだり。その感情のすべてが人間を形成していくものではないでしょうか。悲しい時、苦しくて辛い時は、思い切り泣けばいいと思います。悲しくて苦しい涙が頬に染みこんだ人ほど素晴らしい笑顔ができるのだと思います。これからの社会は本当に速いスピードで様々な変革を遂げていくと思います。しかし、どのような社会、時代になってもそこまで生きているのは心を持った人間なのです。これから困難な時代に立ち向かっていく皆さん、どうぞ温かい心を持った一人の人間として生きていって下さい。そして、WHAT CAN I DO FOR SOMEONE? 誰かのために何ができるのか……を心に、自分のため、家族、仲間そして社会のために、精進していって下さい。皆さんのこれからの未来が夢と希望で輝き続ける事をお祈りしてお祝いの言葉といたします。

P T A 各専門委員会より

新たな旅立ちを迎えるにあたって

進路指導部専門委員長 金子 恭子

二十七期卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。あっという間の三年間だった人も長かった三年間の人も、甲府昭和高校で学んだこと、出会った人はこれからの社会生活の大きな支えとなると思います。各々の進路はばらばらになってしまっていますが、皆さんの更なる飛躍をお祈りいたします。

保護者の皆様。お子様のご卒業おめでとうございます。また六月の進路指導説明会へのご協力ありがとうございました。説明会を無事終えることができ、進路選択への参考にしていただけたことと思います。皆さんの記憶に新しい、二年前に発生した東日本大震災という経験したことのない大きな災害を境に、あらゆる面で多くの人の意識が変化していきました。いま日本は大きな変化の時代を迎えています。さらに世界は日本とは比べ物にならないスピードで変化をしています。そのような時代だからこそ、皆さんはぜひそれぞれの夢や希望を実現させ、新たな日本（や世界）を皆さんの力で作ってほしいと思います。当然困難なことにもぶつかることがあるでしょう。しかしこの学び舎での三年間を思い出し、困難に立ち向かいさらに成長してほしいと思います。今年の大河ドラマに「ならぬことはならぬものです」という言葉が出てきます。「してはいけないことはしない」という意味です。皆さんはそれぞれの進路に進み、新しい世界に飛び出します。より自分で考え、行動する機会も多くなっています。その中でこの言葉で言っているような、社会生活の中での社会的規範（道徳、モラル）をよく考え行動していただきたいです。皆さんがご両親や学校の先生に教わってきたことが、この規範です。何かのときはそれらを思い出せば、進むべき方向は見えるはずです。最近の社会では、これらの違反で大きな影響が出ることも多々あります。社会生活の中では大事なことです。覚えておいて損はないと思います。甲府昭和高校の教職員の皆様には、三年間の厳しくも暖かいご指導本当にありがとうございました。ご苦労も多々あったかと思いますが、たくましくなっただけの子供の成長は、皆様のご指導の賜物と思っております。心より深く感謝申し上げます。機会があれば、卒業後も、卒業生へのご指導・アドバイスなどいただければ、どんなに心強いかと思えます。最後に教職員の皆様、卒業生の父兄、卒業生の今後の活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

ルールを守る意識！

生徒指導部専門委員長 樋口 明美

第二十七期生の皆さん保護者の皆様、卒業おめでとうございます。これまででは両親に守られ、先生方に守られ、学校という安全なカゴの中で、学生という肩書きによって文字どおり「加護」を受けてきました。しかし、これから先は責任と自覚を持って行動することが求められます。

昨年までの生徒指導部専門委員会の活動は、警察と地域の方々にもご協力をいただき、学校周辺の遊戯施設や商業施設への防犯パトロールを実施してまいりました。本年度は、新たな取り組みとして「登校時の自転車安全通学指導」を年八回にわたり実施いたしました。各クラスの生徒指導委員の方々の協力には大変感謝しております。また、日々生徒の指導にあたってくださっている先生方には感謝しております。車での送迎については学校から何度も通知をいただき、昭和高校のホームページにも「車での送迎について保護者の皆様におねがい」とインフォメーションに記載されておりますが、何故こんなに何度も周知するのだろうか？と疑問に思っていました。今回、私の通学指導の当番が雨の日でした。そこで、疑問に思っていた事柄の意味がわかりました。車での送迎時のルールが守られていないのです。我が子可愛さに、校門近くで降りるという気持ちもわからないわけではないですがルールは守りましょう。保護者が率先し通学時のルールという小さなルールを守ることで子供たちへの手本となる契機になるのではないのでしょうか。社会には国で定められた法律ばかりではなく、さまざまなルールがあります。ルールを守ることは集団生活の基本であり、意識して守ることで達成感も得られます。これから子供たちが成長し、社会に巣立っていく過程で、理不尽なことや自分に不利なルールに遭遇することが多々あると思います。評価基準、判断基準がない、答えを導いてくれる教科書もない、指導してくれる先生もいない……全て自分で対処していかねばなりません。エジソンの言葉に「失敗するほど成功に近づく」という名言があります。今までは、言われたことを忠実にやるが多かったと思いますが、これから、昭和高校の校訓でもある「自主創造」を思い出し自分で考え新しいことにチャレンジして下さい。社会生活において大事なことは、挫折を克服する能力や感情をコントロールする能力、他人と強調する能力です。

失敗は成功のもと

保健体育専門部委員長 塩田 さち

第二十七期生として甲府昭和高等学校を卒業していく三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日無事に卒業の日を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

我が家には三人の息子がいますが、幸運にも三人とも甲府昭和高校にお世話になり、今日がいよいよ三男の卒業となりました。その三人の息子たちが通っていた九回間のPTA役員をさせていだき、他の保護者の方より少し学校に行くことが多かったと思いますが、それが楽しみでもありました。役員会などで、正門をくぐった時から生徒が明るい笑顔で挨拶をしてくれますし、校内のすみずみまで清掃が行き届いていました。日頃の先生方の生徒指導のおかげだと感謝申し上げます。

さて、昨年の秋のことですが、就職活動中だった大学四年生の次男が最終面接で不採用となりました。彼がその理由を会社に尋ねたところ、試験会場到着が時間ギリギリだったからだそうです。その時に高校時代の五分前遅刻指導はこのことだったのかと遅ればせながら気がついたそうです。その後彼は時間に余裕を持って就職活動を再開し、無事に決めることができました。甲府昭和高校の指導の厳しさは在学中にはわからなくても、今後の人生において必ずプラスになることだと思います。それぞれの未知の世界に進み、右も左もわからない中で、失敗することもあるかもしれませんが、それは次に成功するための過程でもあります。一度や二度の失敗で下を向かず前を向いて大きく羽ばたいて行ってほしいと思います。

最後になりましたが、先生方には土曜・日曜、また平日の夜遅くまで時間を費やして子供たちを御指導いただき深く感謝申し上げます。どうかこれからも健康で益々ご活躍されますようにお祈り申し上げます。

教務

この一年を振り返って

主任 今 福 祐 二

第二十七期の生徒の皆さん、御卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんの成長や進路実現においても一定の役割を果たしたに違いない「高大連携講座」と「土曜講座」の今年度の様子について紹介したいと思います。

「高大連携講座」は、山梨大学工学部の協力の下、平成十六年度から続いているもので、県内実施校の中では最も長い歴史があります。今年は新たに設置された生命環境学部とも連携し、「山梨で育つ最先端技術」をテーマに九講座が開かれ、今年度の受講者数は延べ四一四名でした。今年は、エネ

ルギー環境問題に始まり、私たちの暮らしに不可欠な微生物、特に酵母の最先端の研究事例や、超低速ミューン顕微鏡を用いた研究の紹介、また生活支援ロボット、リニア中央新幹線の山梨にもたらす影響等、多岐にわたりました。そして最後は、次世代薄膜太陽電池の実験で幕を閉じました。

次に「土曜講座」ですが三年生は五回、一、二年生は十回実施しました。本校職員による課外講座で、九〇分×二コマで行われていて、二年生については、部活動の大会が集中する時期や学校行事、高大連携講座との兼ね合い等のため、前期は三回、後期は七回と、後期に集中せざるを得ない状況があります。また毎回教職員の半数近くを必要とするため、教員の確保が厳しい場面もあります。

部活動との両立を図りながら、本校の特色である「土曜講座」を生徒とともに今後も意義あるものにしていきたくと考えています。

最後に改めて卒業生に向けて、校歌の一節を。

「智を磨き心をきたへ
わが道を開きて進む
大いなる人とならばや」



教養

図書館からの発信

主任 北 村 月 枝

三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

親しんだ人も縁遠かった人もいるでしょうが、図書館の運営を行っているのが教養部です。教養部の仕事は、さらに、文化的行事を実施したり、教養を高めるための情報を発信したりしています。

今年度の教養公演としては、「マリンバをはじめとする打楽器の演奏

考図書を推薦していただき、各分野ごとにまとめ、生徒が利用しやすいようにしました。さらに、話題となった事件の新聞記事のスクラップを整理して生徒がいつでも閲覧できるようにしました。また、社会への関心を高めるよう、目に入りやすい廊下に写真ニュースを掲示したりしています。

生徒の自主的な活動組織である図書委員会ではブックフェアを開催し、今年も多く生徒でにぎわいました。少なからず図書館に親しんでくれたことと思います。

平和でなければ文化、教養は軽視されていきます。図らずも昨年十一月、山梨県にすばらしい県立図書館が開館いたしました。生涯学習が言われる今、図書館を人生の友として上手に利用し、豊かな人生を歩んで欲しいと思います。そして、本が読める幸せを感じてください。

進路指導

甲府昭和高校から未来へ向かって

主任 池 谷 佐 知 子

第二十七期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。第二十七期生はハクラス編成であることから注目されてきました。高校入学時から、授業やH.R.部活動など学校生活全般において先生方の厳しくも手厚い指導を受け、「自主創造」の校訓を体現すべく努力した結果、その期待に応えるすばらしい活躍と成長を遂げました。推薦入試では県内一の成果を上げ、またセンター試験に始まり一般受験にも果敢に挑戦し、各自が希望する進路を決めました。

甲府昭和高校の伝統として培われた第二十七期生のパワーが実証されたと言えます。ここで進路行事を中心

が少しずつ統合され、皆さん自身の中で「未来予想図」が設計されてきたのです。三年次は、学園祭で指導的役割を果たした後、すぐに気持ちを切り替え進路実現に邁進し始めた姿勢が印象的です。夏以降、進路に悩み不安を抱えながら勉強に励み、受験に挑む姿。また秋からは、底冷えのする学習コーナーで質問や小論文指導に食いつく姿。窓の外は夕闇を気にも留めず学習室で一心不乱に勉強する姿。先輩達が苦悩し学び努力し、その結果見事に進路実現した姿が、後輩達への最高の手本となりました。

最後になりましたが、第二十七期生の皆さんが甲府昭和高校での三年間を糧に、今後益々活躍され、未来を担う人材となれることをお祈り申し上げます。

研究・研修

この一年を振り返って

主任 風 間 久 幸

三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今年度、研究・研修係は、①生徒の学力向上と②教師の授業力向上、そして③キャリア教育の推進を目標に、以下のような様々な活動を企画・実施して参りました。

①生徒への自主学習環境の提供
放課後の学習会場として、三年生には英語教室を、一・二年生には視聴覚室を解放しました。

②教師の授業力と資質の向上をめ

ざす取り組み
・年四回の授業参観期間を設け、年十回を目標に教師相互の授業参観を実施しました。

・年二回の授業アンケートを通じて、生徒の意見を直接授業改善に生かしています。

・今年度は教育相談に関する校内全体研修会を実施するとともに、県総合教育センター等各種校外研修会・セミナー等各種校外紹介、自己研鑽を働きかけました。

③生徒のキャリア的能力の育成をめざす活動
・海外で活躍する本校卒業生を招き、全校生徒を対象にキャリア講演会を行いました。

・各学年と協力し、総合的な学習の時間に自主開発教材の活用や、「生きる力」を育むための教養講座・職業人講話などを実施しました。

・小中高連携事業として、年三回の児童生徒合同会議で小中学校生の意見を集約し、前期は昭和町の全小中学校と協力して「昭和町クリーンキャンペーン」を、後期はあいさつ運動を行いました。また、押原中学校と連携して部活動交流も実施しています。

生徒に少しでもよい教育を提供するために、引き続き研究・研修係は効果的な企画を検討して参ります。卒業生の皆さんは、これからの人生で学ばべき多くのことに出会ってください。どうか「学ぶ姿勢」を忘れず、益々ご活躍されることをお祈り申し上げます。

年間活動報告と

生徒会

生徒会活動について

主任 渡辺 俊也

生徒会活動の
基本は話し合い
であり、きちんと
意見を述べあ

総務

家読(うちどく)のすすめ

主任 千野 満広

辞書によると「社会」という言葉は、いろいろな関係の結びつきをもって生活する人間の集まり、とあります。私たちのそれぞれは、何らかの関係(目的)を持った集団に所属して、統治、生産、企画、運営、奉仕……といった目的のある活動を営んでいます。私たちが日常使っている、コミュニケーション、リーダー、ボランティア……といった言葉はすべて社会を前提にした言葉に感じます。生活の場が社会である以上、社会の中でどんな態度や行動が必要なのかを私たちは知らなければいけません。生徒会係の職員は、この「社会の中でどんな態度や行動が必要なのか」という学びの場を提供することが仕事だと考えます。所属する会員が喜びを持てる、平等である、恩恵を受ける、といった目的を達成させるための行動は何か、また、そのために個人は何ができるのかを考えてほしいと思っています。

さて、生徒会役員の生徒は、通称「生徒会」と呼ばれます。しかし、「生徒会」とは生徒全員が会員となっている組織(会)名で、生徒会役員はその代表者です。従って役員の主な仕事は会員の意見を

まとめることや、生徒会行事の運営と協力、代表として対外行事への参加です。学園祭(紫映祭)は生徒会主催の最大行事で、これを企画・運営するのは生徒自身であり、その主たるメンバーが紫映祭実行委員会です。各種の委員会も同様に、それぞれが分業して企画・運営をし、生徒会役員が企画しているわけではありません。このような生徒会行事は生徒の主体的な活動でなければ意味がありません。もちろん、学校教育としておこなわれることなので職員は手助けをします。大人と高校生の視点は違うため意見のぶつかり合いは当然です。生徒間といえども時として食い違いは避けられません。そんな活動から相手を尊重する姿勢や、争いを回避する術を学ぶのではないのでしょうか。

学校から離れた一般社会においても、このことは同様で、目的のある集団(組織)の中でどんな義務を果たすかが重要で、個人主義が先行して組織の意味が薄らいではいけません。目的にそって意見が出され、議論し、最終判断は代表者(学校では代議員や生徒会長)が決断する、という構図はこの組織も同じではないでしょうか。そう考えると、組織では代表者を選ぶのも重要、時として個人の我慢も必要、また、奉仕とは次元の高い営みか?といういろいろなことを感じます。そして、所属する個人はどのような生き方をするのか、に収束するように感じます。

生徒指導

自己実現

主任 今村 勇二

今、「宇宙兄弟」という漫画に夢中になっています。幼い頃に「二人で宇宙飛行士になろう」と約束した兄弟を描いた物語であり、約束通りNASAの宇宙飛行士となった弟の「南波日々人(なんばひびと)」と、会社をリストラされた無職となっていた兄の「南波六太(なんばむつた)」の二人を中心に、また、同じ志を持つ仲間やそれを支える人々によってストーリーは展開していくものです。主人公である六太が、みなさんと同じように自己実現を目指していく中で、印象に残る言葉をいくつか紹介します。

まず、六太が夢をあきらめかけた時、日々人が言います。「宇宙行くの夢なんだろう。諦めんなよ。もし諦め切れるんならそんなもん夢じゃねえ」今のみなさんかすれば、大学受験の目標校にあたるでしょうか。一年次の国立大学の志望数と三年次のそれを比べると一目瞭然です。かなりの人が諦めてしまっている現実があります。簡単に叶わないから、人はそれを夢と呼びます。夢を諦めることは自分を諦めることと同じです。だから、どんなにうまくいなくても理不尽を感じても自分を諦めてはいけません。

また、宇宙飛行士になろうとする過程でいろいろな障害が出てきますが、それを六太はこんなふうに表示しています。「俺の敵は、だいたい俺です」みなさんも、何かを達成しようとして頑張ろうとする時、敵は自分自身の中にいることが多いのではないのでしょうか。でも、それを他人のせいにして逃避してないでしょうか。六太の人と違うところは、『俺の敵は、だいたい俺』だと認めているところだと思います。六太の一番良いところは自分を尊重しているところだと思います。同じ志を持つ仲間を六太はこんな言葉で表現しています。「一番ふさわしいのはケンジです」「でも

子どもが一緒に読書を行うものです。どのような本を読んだら良いか? ということは、大変難しい質問ですが、例えば、こんな規準で選んでみたらどうでしょうか。本は、一度読んだら、もう読みたくなくなるのが大方ですが、中には、何度でも読みたくなるような本もあります。例えば、私の場合のそれは、夏目漱石「三四郎」、島崎藤村「破戒」、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」等です。「三四郎」は、熊本から上京した大学生の小川三四郎が、里見美彌子というハイクラスな東京の女性に淡い恋心を抱くという話ですが、特に大きなドラマ性がなく激しく人を惹き付け

ける魅惑があるように思えますが、不思議と繰り返し読みたくなります。なぜだろう? と、考えてみましたが、右の三作品に共通していることがあります。それは、すべて若い年代の学校(教育)に関係している内容(人物設定・主題等)ということですから、三四郎は大学生、「破戒」の瀬川丑松は小学校の教員で最後は生徒たちに自分の出生を告白する、「銀河鉄道の夜」も学校の場面から始まり、少年二人の友情がテーマの一つになっています。どんな年齢層でも、学校(教育・年少時代・学習等)というテーマは、人を惹き付ける魅力があるのだと思います。学校に関係しているテーマの小説なら、きっと子どもも、「自分の身に引き寄せて」読むことができるのではないかと思います。

諦めないこと……それが夢を叶えるたった一つの方法です。また、宇宙飛行士になろうとする過程でいろいろな障害が出てきますが、それを六太はこんなふうに表示しています。「俺の敵は、だいたい俺です」みなさんも、何かを達成しようとして頑張ろうとする時、敵は自分自身の中にいることが多いのではないのでしょうか。でも、それを他人のせいにして逃避してないでしょうか。六太の人と違うところは、『俺の敵は、だいたい俺』だと認めているところだと思います。六太の一番良いところは自分を尊重しているところだと思います。同じ志を持つ仲間を六太はこんな言葉で表現しています。「一番ふさわしいのはケンジです」「でも



保健・環境

一年間の報告

主任 小林秀徳

卒業生の皆さん、保護者の皆さん、卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。この一年、明るく健やかに過ごせたでしょうか？ 保健係のこの一年の活動は、主に皆さんの健康管理・維持・増進や学校生活における安全で衛生的な環境を整えること。また、それらに関する情報や知識・アドバイスを提供することなどを中心に行っていました。

その活動の中で本年度も学校スクールカウンセラーの年間百四十時間の配置があり、今年で四年目

環境教育

一年を振り返って

主任 村松親志

三年生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとうございます。卒業後の進路はそれぞれ異なりますが、甲府昭和高校第二十七期生の皆さんが新たな場所で大いに活躍される事を期待します。

環境教育係は、本校教育環境の向上はもとより、生徒各自の規範意識を高める中、環境そのものの質的保全や改善を生徒自身に実践させる事を目的として設置されました。狙い通りの活動が出来ているか否かについては、関係各位の皆様のご意見を待たねばならない所ですが、環境保全に対する高い意識は、本校生徒に確実に浸透しているものと確信しております。分掌としての活動を振り返りますと、まずは、環境美化運動の推

となる中村友美先生が基本的に水曜日午後の四時間常駐していただき、本校生徒や保護者の方、教員等のカウンセリングや相談に乗っていただきました。一日平均三、四人の生徒がカウンセリングを受け、その内容によっては家庭と学校が関わり、ひとりの生徒に対してあらゆる角度から相談、援助、指導等を行っていました。しかし、複雑な内容が多く、一度のカウンセリングで解決できず多くの時間が必要であったり、また、多くの人と関わる中で最善の方策を探っ

ていなければならぬということもありました。また、誰にも悩みを打ち明けられず一人悩んでいる生徒もいるかもしれません。多くの生徒が気軽に相談できる体制、方法などさらに工夫をしていかなければならないと思っています。これからは、自分の健康は自分で守り、「自分の生活は自分で作る」このことを今まで以上に実感していくと思います。作られた環境で安全に過ごすことができた環境から、今度は自分でよりよい環境を作っていくかなければならないでしょう。今までの自分の生活をここで一度見直してみてもいいがですか。環境を整え、心を落ち着かせて新しい一歩を踏み出してください。

三年生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとうございます。卒業後の進路はそれぞれ異なりますが、甲府昭和高校第二十七期生の皆さんが新たな場所で大いに活躍される事を期待します。

私達の生活は様々な消費行為の上に成立しています。しかし、資源は無尽蔵ではありません。環境維持には常にメンテナンスが必要です。「脚下照顧」そして「凡事徹底」まずは足下から必要に応じた改善を施し、次第に大局的な環境保全へと意識を拡大して行きたいものです。

卒業生の皆さん、甲府昭和高校で培った環境教育の実践を今後の人生の様々な場面や節目で是非活かして下さい。皆さんの、小さいながらも知れないけれどしかし堅実な努力は、社会を変革して行く原動力に必ずなります。卒業生の皆さんの不断の努力と実践を強く祈念して、私の挨拶を結びたいと思います。ご活躍下さい。

情報

一年間の活動報告

主任 三井敏夫

情報係の仕事は、広報関係と視聴覚関係、情報機器関係に分けることが出来ます。広報分野の活動として、ホームページの制作及び更新、広報紙「甲府昭和TODAY」編集、学校紹介ビデオの作成などを行います。ホームページは甲府昭和高校の特色、学習や部活動、様々な行事の様子などを生徒、保護者、地域住民の方々、本校を志望している中学生などに発信しています。本校生徒の生き生きとした学校生活を個人情報保護という制約の中で最大限に発信することを心がけてきました。また、県下の中学生に年三回届けられる「甲府昭和TODAY」の作成、夏休みに行われる学校説明会にお

しています。広報関係と視聴覚関係の活動は、情報機器を利用することが不可欠です。校内のコンピュータの管理が重要な仕事のひとつです。先生方のPCや校内サーバーの設定・管理・バックアップ、ネットワークの設定・管理、パソコン室の管理、トラブル処理などたくさんの仕事があります。学校がよりよい教育活動をおこなえるようにサポートするのが情報係の仕事です。

平成24年度PTA年間事業

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 4月7日(出) | 入学式・新入生保護者会 |
| 4月20日(金) | PTA学年委員会(1・2・3年) |
| 4月30日(月) | PTA総会・学年部会・学級懇談会 |
| 5月14日(月) | 高P連理事会(小瀬武道館)(兵道会長) |
| 5月18日(金) | 高P連定期大会(石和スコレー)(兵道会長) |
| 6月12日(火) | PTA専門委員会(進路部会)保護者対象進路講演会 |
| 7月6日(金)～7日(土) | 高P連関東(千葉)大会(秋山副会長・小川教頭) |
| 8月22日(水)～24日(金) | 高P連全国(和歌山)大会(兵道会長・阿部校長) |
| 10月3日(水) | PTA専門委員会(保健体育部会)心肺蘇生法講習会 |
| 11月3日(土) | 高P連研修大会(山梨市民会館)(役員3名) |
| 11月9日(金) | 校内強歩大会 |
| 2月7日(木) | 高P連理事会(石和スコレー)(兵道会長) |
| 2月14日(木) | PTA学年委員会(3年) |
| 3月1日(金) | 卒業式・3学年部会総会 |
| 3月14日(木) | PTA学年委員会(1・2年) |
| 年間8回 | 登校時交通指導(生徒指導部会) |



学 年 報 告

一年を振り返って

一学年主任 丸 山 淳

早いもので、四月七日の入學式から一年が経とうとしています。当初は新しい生活への期待と不安から、少し緊張気味だった表情も、いろいろな行事に積極的に参加する中で笑顔に変わり、今では毎日楽しく学校生活を送っているように見えます。

今年度、一学年は重点目標として「豊かな人間性の育成を目指す」「基本的生活習慣の育成を図る」「学習指導の充実・基礎学力の定着を図る」を柱として取り組んできました。特に五分前登校、さわやかな挨拶、漢字検定・英語検定の取得については学年集会の中でも触れてきましたが、生徒も積極的に取り組み、一定の成果が現れています。ご家庭のご理解とご協力に感謝申し上げます。また、一学年二百七十九名中二百四十二名が部活動に意欲的に参加し、文字通り文武両道を目標とする姿勢が見受けられます。顧問や先輩から教を受ける中で自分なりに創意工夫をし、強い心と体を養ってくれた良いなと思っています。七月に行われた紫映祭では、いろいろな中学校での経験を出し合いながら準備を進めましたが、なかなか思うように進まず、苦勞したクラスがありました。しかし、みんなで協力しながら限られた時間内で全員が団結し、素晴らしい成果を収めてくれました。また、十一月に実施され

一年を振り返って

二学年主任 小河内 照 仁

高校二年生を表現する言葉として「中だるみ」がよく使われます。年度当初、この「中だるみ」をできる限り抑えようと学年職員が一致して思いでスタートを切りました。具体的には、「豊かな人間性の育成」「基本的生活習慣の確立」「基礎学力の定着と進路目標の明確化」を三つの柱として組んできました。クラスも文系と理系に分かれ、専門性を増し学習内容も難しくなることから、まずは、毎朝登校時に学習記録表の記録をし一日一日を大切に指導を行い、さらには個人面談を中心に、将来の目標を決めるアドバイスを行ってきました。生活面では一年時からの指導を継続し「爽やかなあいさつ」「爽やかな身だしなみ」「爽やかな行動」に取り組んできました。一年を振り返ると「中だるみ」を感じることがありましたが、総じて、一人ひとりが自覚を持ち行動した一年であったと感じています。

紫映祭では、積極的にクラスをリードする生徒が増え、昨年度と比べ意気込みの違いを感じました。準備段階でお互いの意見が衝突することもありました。それを乗り越え、思い出深い学園祭を作り上げていきました。窓絵、クラス合唱等、どれをとっても素晴らしい作品で、今でも印象深く残っています。二年生の最大行事である沖繩への研修旅行は、当初の目的を十分に果たし大きな成果を得ることができました。事前学習では、各グループがテーマを決め、それぞれが工夫を凝らした発表を行い沖繩について多くのことを学び合いました。「さとうきび畑」の視聴では、戦争がもたらす悲惨さや人としての在り方を改めて考えました。そして現地で、戦争の傷跡を実際に自分の目で見て、ひめゆり学徒隊の方の講話を聴き、沖繩の人たちの想いを感じ、平和の尊さを見つめ直す貴重な経験ができました。さらに、沖繩の自然や文化に触れ、仲間との交流を通し、普段の生活では学ぶことのできない多くのことを学ぶ良い機会となりました。旅行後の生活において、一回りも二回りも成長した生徒たちの姿を見ることができ大変嬉しく感じています。

来年度は、最上級生として今年以上に様々な場面で甲府昭和高校をリードし、さらに、各自の進路目標実現に向け努力をしなければなりません。生徒たちにとって大きな試練です。その試練を乗り越えられるよう全力でサポートしていきたいと考えております。最後になりましたが、保護者の皆様には、この一年多大なご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。来年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

卒業に寄せて

三学年主任 初 鹿 野 仁



挑戦し体験する青春時代にか、

者様の様には、この三年間、本校の教育活動に対して多大なるご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

緊張した面持ちで入学したあの日から早三年、立派に卒業の日を迎えることになりました。みなさんにとってこの三年間とはどのような時間だったのでしょうか。程度の違いこそあれ、自分を追い求め、いろいろなことの答えを探し、戸惑いながらもがんばり続けた三年間だったのではないのでしょうか。肉体的にも精神的にもそれまでのものが組み直され、成長を遂げる時期に当たる高校時代は、誰にとっても不透明で苦しい時期に違いありません。一方で、新しい自分を発見したり、新しい価値に気づいたり、振り返ってみると成長を実感できる時期であることもまた確かです。そんな中身の濃いみなさんの三年間を、微力ながら見守り無事に送り出すことができることを私たちが学年職員一同大変うれしく思っています。

人生には節目というものがあります。みなさんが無事に今日の日を迎えられたのは、間違いないで、みなさんの成長を見守ってきたことがあってこそのことだということを改めて思い起こしてもらいたいと思います。そして、いつもなら照れくさくて言えないかもしれないけれど、節目ということで今日は、「この三年間ありがとう」という気持ちを自分の言葉でしっかりと伝えてほしいと思います。終わりにになりましたが、保護者の皆様には、この三年間、本校の教育活動に対して多大なるご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

学校評価

H24年度

生徒・保護者の評価結果について

今年度1月に生徒、保護者の皆様を対象に本校の重点目標に関してアンケートを実施させていただきました。お忙しい中での協力に深く感謝いたします。詳細につきましては、自己評価と学校関係者評価と併せて、後日学校HPで公開させていただきます。ここでは、アンケートの中で明らかになった点等についてご報告させていただきます。

【評価の低い項目】

- ①「自分たちの意見や授業アンケートの声が授業に反映されている。」(生徒)
「生徒の声が授業に反映されている。」(保護者)
↓来年度から完全実施される新しい学習指導要領に対応しながら、授業の改善と充実を図る中で、さらに取組を進めていきたいと考えています。
- ②「学習活動や読書などにおいて、図書館を効果的に利用した。」(生徒)
「学習活動や読書などにおいて生徒が図書館を利用している。」(保護者)
↓学習活動や読書などにおける図書館利用状況については、勉強や部活動で多忙な日々の中で、読書に親しむ余裕がなく、図書館を利用しての調べ学習をする余裕がないと考えられます。生徒の社会問題に対する意識や、進路実現に向けてもっと早くから取り組む意識を学年と協力し

て高め、図書館を有効的に活用することを図っていきます。また社会的関心の高いニュースや話題についての資料を迅速に揃え、情報を発信して、生徒の興味関心を図書館利用につなげていきます。

【(わからない)が多い項目】

- ①「新学習指導要領に対応する授業改善が行われている」30・0％
②「生徒の声が授業に反映されている」28・8％
↓「新しい学習指導要領」では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を目指しております。また、知識・技能を活用する学習活動を充実していきます。授業公開等で授業を見ていただき、ご意見や感想をいただきたいと思ひます。
- ③「生徒会活動が活発で、生徒のリーダー性、社会性が育っている」23・9％
↓様々な生徒会行事を通して、生徒には組織の中で個人の役割が果たせるように、リーダーやリーダーへの協力体制の必要性を理解させ、尊重や奉仕の精神を育てるようさらに努力してまいります。
- ④「学校の教育相談活動は充実している」23・8％
↓情報交換を適切に行い、保健室と担任や保護者との連携を深め、共通理解を図っております。

また、学校カウンセラーと連携して生徒の支援を行っております。さらに特別支援校内委員会や特別支援コーディネーターも組織されております。

- ⑤「エネルギー教育、環境教育が推進されている」22・2％
↓エネルギー、環境関連行事の目的や趣旨を適切にご理解いただくために、文書の内容や生徒への説明をより詳細にしていまいります。

- ⑥「ボランティア精神の育成が実践されている」21・5％
↓昭寿荘訪問、昭和町関連の事業への参加、南三陸町への清掃活動等を実施しております。今後は、広報活動を充実し、さらに、生徒の自主的な参加を促すような工夫をしていきます。

【その他】

○「わかりやすく、魅力的なホームページになっている」については見たことがない保護者が34・8％でした。更新が滞っている内容もありますが、是非一度本校のホームページの閲覧をお願いし、ご意見ご要望等をいただければと思います。

紫映残照

平成二十四年は、四年に一度開催されるオリンピックが八月ロンドンで行われた。獲得した日本のメダルは過去最高の三十八個。日本の選手団の活躍は、大変な勇氣と感動を残してくれました。その中で、山梨県関係の選手の活躍には、感銘をうけた。レスリング競技の米満達弘選手、金メダル獲得や水泳の鈴木聡美選手の三個のメダル獲得の活躍は、記憶に残る出来事でした。

十一月十一日には、新しい県立図書館が開館の日を迎えた。甲府駅北口の大変利便な場所に、最新の施設設備を備えた図書館は、すでに多くの方が利用しており、山梨の文化の一大拠点となっている。第一四七回直木賞作家となった辻村深月さんが、山梨県の広報誌の中で、「新しい県立図書館は、物語の舞台になりそうなたすきな場所ですね。高校時代通った図書館がこんな風に生まれ変わり、『母校(山梨)の後輩たちはここへ来るのか』と、うらやましく思います。」

と新しい図書館の紹介をされていきました。皆さんもご存知のことと思いますが、この新しい図書館の愛称は「かいがらり」で、本校三年生の武居君の考案した名称です。今後、多くの県民に利用される文化拠点になることでしょう。本校生には、より身近な施設として利用してもらいたいものです。

以上、平成二十四年の出来事の中から気になったものを紹介しました。

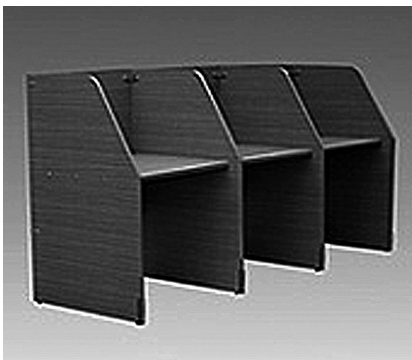
(教頭 浅川英三)

第二十七期卒業生 卒業記念品

「個別学習用机 三台」

二階の質問コーナーの場所に、三台寄贈いたしました。自習学習・個別面談等に活用してください。

第二十七期卒業生一同



編集後記

執筆された、PTA役員、先生方ありがとうございました。県事業の「しなやかな心の育成プロジェクト」家庭・地域・学校で取り組む「自他を敬愛する心」の育成から「心」について、本校では既に保護者や地域と連携した「あいさつ運動」、「通学時マナーアップ運動」を実施してきましたが、PTAにも何か取り組みができないかと考えて、土橋二学年部会長・小林一学年部会長が中心となり、一・二学年生の保護者全員にアンケート方式で各家庭で具体的な方策を考えるという取り組みを行いました。そのアンケート結果です。

- ① 家読を行う。 106人 19・6％
② テレビ・携帯の使用時間を制限する。 129人 23・8％
③ 食事時間に学校に関する話題を出し、話し合う。 220人 40・6％
④ 家庭学習開始時間、就寝時間を取り決める。 78人 14・4％
⑤ その他 8人 1・5％ (回答数541人)
- この取り組みが、お子さんとのコミュニケーションを豊かにするきっかけになってくれればと思います。来年度以降も、引き続き実施したいと考えていますので、取り組みんだ結果や感想等をお知らせくだされば幸いです。

(文責 教頭 小川弘一)